

会 議 録

会 議 の 名 称	第2回上尾市地域創生総合戦略審議会		
開 催 日 時	平成27年8月27日(木) 13:30~15:30		
開 催 場 所	庁議室		
議長(委員長・会長)氏名	上尾市地域創生総合戦略審議会 会長 佐藤 徹 副会長 嶋田 一孝		
出席者(委員)氏名	樋口 雅之、大澤 富三子、増田 力、星野 美和子、川上 恭子、今川 修一、 高野 淳、太田 篤實、鈴木 茂、平田 通子、道下 文男、富岡 正雄		
欠席者(委員)氏名	本田 直子		
事務局(庶務担当)	行政経営部長 町田 洋一、行政経営部参事兼次長 駒崎 久志、 行政経営課長 柳下 貴之、行政経営課副主幹 野崎 孝幸、 行政経営課副主幹 角田 広高、行政経営課主査 森田 健司、 行政経営課主査 新田 武志、行政経営課主任 高橋 みゆき 行政経営課主事 荒井 怜央 株富士通総研 東 史人		
会 議 事 項	1 議 題	2 会議結果	
	開 会 1 議 題 (1) 会議の公開について (2) 上尾市地域創生長期ビジョン(案)について (3) 上尾市地域創生総合戦略(素案)について (4) その他 閉 会	報告・説明と質疑応答	
議 事 の 経 過	別紙のとおり	傍聴者	1人
会 議 資 料	別紙のとおり		

議事の経過

司会	<p>開会</p> <p>みなさま、こんにちは。本日は公私ともにお忙しい中、ご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。ただいまから、第2回上尾市地域創生総合戦略審議会を開会します。</p> <p>本日の会議は、条例第6条の規定に基づき、委員の過半数の出席がありましたので、有効となりますことを報告いたします。それでは、条例第6条第1項の規定に基づき、佐藤会長に会の進行をお願いします。</p>
会長	<p>みなさま、こんにちは。議題に入る前に本日は、事務局より総合戦略の素案の説明があります。今回は長期ビジョンイメージ、その後送付いただいた素案、今回は事前に総合戦略の素案を送付いただき、一通り全体像がそろいました。ここで、本審議会の役割について改めて確認させていただきたいと存じます。</p> <p>市は、長期ビジョンと総合戦略を10月末までに策定することにしており、本審議会においてもそれをめざすということでした。翻って、本審議会の設置目的については市の条例第1条に、「総合戦略を策定し、及び推進するに当たり、市政の各分野から広く意見を聴取するため」と規定されております。従いまして、本審議会は長期ビジョン及び総合戦略の案を取りまとめるのが目的ではありません。また審議会としての意見の一本化をめざさず、委員の皆さまから忌憚なく意見をできるかぎり出していただく。そして、事務局はその意見を最大限取り込んだ案を作成し、市の本部会議等の庁内検討会議で検討いただいた上で、その後に審議会でも協議していくというものでございます。</p>
会長	<p>議題</p> <p>それでは、次第に従い進めてまいります。</p> <p>はじめに、議題の(1) 会議の公開についてですが、第1回の審議会で当審議会は「原則公開」とすることを決めております。</p> <p>事務局、本日の傍聴希望者はいらっしゃいますか。</p>
事務局	<p>傍聴希望者は、1名いらっしゃいます。</p>
会長	<p>それではただいまから、傍聴希望者に入場していただきます。</p> <p>— 傍聴希望者入場 —</p> <p>傍聴を希望される方に、傍聴にあたりまして注意事項を申し上げます。</p> <p>事務局からお配りしました「傍聴に当たっての注意事項」をよくお読みいただき、遵守するようお願いいたします。注意事項に反することがあった場合には、退席していただく場合がありますので、ご了承願います。</p> <p>つぎに、議事の正確性を期するために、議事録に署名をお願いしたいと考えております。すでに第1回の審議会会議録でもお願いしておりますが、議事録署名人につきましては、出席委員の中から1名、会長の私より指名させていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。</p>

	<p>《異議なしの声》</p> <p>それでは、議事録署名人につきましては、指名させていただきます。本日の会議の議事録署名人は、樋口委員さんをお願いいたします。樋口委員さん、よろしくお願いいたします。</p>
会長	<p>続きまして、議題の(2)上尾市地域創生長期ビジョン(案)について、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>説明の前に、本日の会議資料につきまして、あらためて確認させていただきます。本日の会議資料は、</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 次第 ② 資料1 上尾市地域創生長期ビジョン・総合戦略の全体像 ③ 資料2 上尾市地域創生長期ビジョン(案) ④ 資料3 上尾市地域創生総合戦略(素案) ⑤ 資料4 総合戦略への意見シート <p>の5つです。</p> <p>— 過不足確認 —</p> <p>それでは、説明に入らせていただきます。</p> <p>議題(2)</p> <p>資料1 上尾市地域創生長期ビジョン・総合戦略の全体像 資料2 上尾市地域創生長期ビジョン(案)について</p>
会長	<p>事務局からの説明が終わりました。 ご質問、ご意見等がありましたらお願いします。</p>
委員	<p>質問ですが、出産する世代の流出する理由は何か 本市は、県内でも出生率が低い理由はなにか</p>
会長	<p>ただいまの質問二つは根幹な部分であり、子育て世代である30代前後の住民がさいたま市などへの転出していく、国及び県の出生率平均1.3人であり上尾市はそれよりも低い結果である要因はなにか。また、さいたま市などへの転出をしている原因を探り、そのための手立てを講じなければ戦略として成立しないので、この点について行政として把握しているのか。</p>
事務局	<p>転出の理由ですが、具体的に転出者へのアンケートを取得していないので正確な原因ではありませんが、結婚や家の購入などで人生の転換期による理由が多いように思われます。また、出生率についてですが、国と同様の伸び率で本市も考えていきたいと思えます。なお、出生率を上げるための考えとしては、今後の戦略会議の中で考えていく予定です。</p>
委員	<p>28ページにある「2 目指す将来の姿」として3点挙げているが、具体的な提案はこれから取り上げることでよいか</p>
事務局	<p>総合戦略の説明の中で具体的に説明いたします。</p>

委員	<p>人口が減少する原因として、子ども達が親と同居せずに新居を購入して転出していくことがある。残された親のみの世帯をいかに解決していくかが、上尾市の人口減少を止めることになると思う。</p>
会長	<p>ご意見として受け止めます。</p> <p>確認ですがあくまでもビジョンなので、どのような街に上尾市をしていくのか、どのように実現していくのかを具体的な方策として、今後議論し総合戦略の中で表していくことになり、街づくりの重要な指標として人口がある。人口については、このビジョンの中で謳っていく。そして、定義の大部分は過去のデータやそれに基づく将来推計のシミュレーションに割かれていて、実際にビジョンらしきものは、24ページ以降の将来目指すべき人口から最後までが目指すべき方向であります。</p> <p>そこで伺いたいのですが、事務局の説明の中で27ページの図表44、総人口の棒グラフにおいて、平成52年の時点で207,748人は目標人口と考えてよろしいのか。</p>
事務局	<p>シミュレーションをした結果、この数字を目標としたい考えでございます。</p>
会長	<p>推計するにあたり、様々な仮定の中で結果も変わることもあるが、単純な推計では平成52年の時点で上尾市の総人口は195,497人になるというものとなっている。しかし、このように減少させないようにし、20万人を下らないようにしていきたいという資料になっています。</p> <p>文章の読み方により、様々な解釈があると思うが平成52年時点の207,748人を目標人口として見ているのか、または、年少人口や生産年齢人口、老年人口の数値についてもそれぞれ目標人口としていくものなのか。</p>
事務局	<p>具体的には、図表44で示しているとおおり、年少人口の平成52年時点の19,669人に対して、26,806人になるよう施策をとっていくことのほか、生産年齢人口や老年人口のそれぞれの施策を行うことで世代合計が、総人口の207,748人として想定しております。</p>
会長	<p>総人口としての目標を持つようにするのか、もしくは根拠となる年少人口や生産年齢人口、老年人口などそれぞれとしての目標を持つものなのか。</p>
事務局	<p>上尾市の総人口を維持するものとして、207,748人を想定しております。</p>
会長	<p>人口問題であれば、年齢構成の問題があると思う。例えば、総人口はそれほど減らないが、生産年齢人口が減り老年人口が増えるなどで、街全体の活性化などに影響する大きな問題もあり、単に総人口だけで目標値を設定するのではなく、その中身としてP28の目指す将来の姿として3点の目標を示すことに意味があると思う。これまで総合計画は、総人口のみで目標を持っていたと思うが、人口問題となれば年齢構成が重要なポイントとなってくるので、事務局としての考え方などはどうなのかと考えた次第です。</p>
事務局	<p>あくまでも目指す方向として作成したものとして受け止めていただければと思います。また、年少人口や生産年齢人口、老年人口としてそれぞれ目標が</p>

<p>会長</p>	<p>ありますが、長期ビジョンでは年齢別に人口の目標を設けており、合計207,748人とした形での書き方にさせて頂いております。目標としてどのように位置づけていくかについては、事務局で検討していきたいと思っております。</p> <p>「上尾市地域創総合長期ビジョン（案）について」は、他にご意見など無いようですので、次の(3) 上尾市地域創生総合戦略（素案）について、事務局から説明をお願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>それでは、説明に入らせていただきます。</p> <p>議題(3)</p> <p>資料3 上尾市地域創生総合戦略（素案）</p> <p>資料4 総合戦略への意見シート</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございました。ただいま総合戦略素案、意見シートについて説明がありましたが、これについて質問ご意見等ありましたらお願いします。</p>
<p>委員</p>	<p>8ページ以降の重点施策の中で、KPIの項目というのは(例)と書いてあるが、今後考えていくことなのか。</p>
<p>事務局</p>	<p>例として挙げているものでございます。今後、必要な数等の話が出てくるので、いくつか設定していくことになるかと思っております。</p>
<p>委員</p>	<p>これは非常に重要なところで、これをクリアしていくために具体的な施策も生まれてくる。これは庁内の会議等で決めていくことか。</p>
<p>事務局</p>	<p>具体的に市で調べられる数字など、取り組みをやりながら指標を出せるものを考えていく予定です。</p>
<p>委員</p>	<p>提案として、せっかくこの会議の中でいろいろな視点を持った方がいるので、皆さんの意見も参考にしたいほうがよい。</p>
<p>会長</p>	<p>KPIについては素案の段階なので検討していただきたい。こういう指標が望ましいなど、候補を挙げていってはどうか。指標は1つだけで施策を評価するのは難しいので、いろいろな角度から施策を見ていくためには、指標は複数あるほうがよい。</p>
<p>委員</p>	<p>9ページの「出産子育ての希望をかなえる」のところで、待機児童と書いてあるが、現実的には上尾に待機児童はいない。学童保育所はNPO法人でやっている、過去、待機児童がたくさんいた時代から、NPO法人は待機児童出さないようにやってきた。保育所についても、子ども子育ての会議の中でも、計画的に保育所を作っているのだから、実質的に何人か待機児童はいると思うが、少し観点が違うと思う。</p> <p>もうひとつ、かつて「子育てするなら上尾で」といって、たくさんの母親が上尾に越してきて子育てをしていた時代があった。当時と比べると、子育てができる魅力が感じられない。いろいろなものを作って、実際にやっているのに、</p>

	<p>子育てしている親が上尾に住んでいていいなと思えないし、得をしているという実感が持てない。一人は子どもを産むが、二人目を産もうとするときに、上尾で子育てするには「付いてくるもの」がないと思う。こういった意見を子ども子育ての会議の中でたくさん出してきたが、そういったものが反映されてほしい。子育てガイドブックも一般の母親は知らない。PRの仕方や配布の仕方も含めて検討してほしい。</p>
会長	<p>待機児童ゼロ人は正しいか、待機児童の定義によっても変わってくるが。</p>
事務局	<p>学童保育所はゼロ、保育所は今年の4月でたしか14名となっております。</p>
会長	<p>KPIと目標の設定はセットなので、目標をどのレベルに持ってくるかということになるが、その設定にあたって過去のデータもほしい。これだけ出されても判断しかねるので、待機児童に限らず、次回までにその情報を出してほしい。</p>
委員	<p>この指標に入れたのは例なので、これが悪いとは思っていない。計画的に保育所を作っていくこともしているので、そういった指標を持つてくることもできるのでは。</p>
委員	<p>2年続けて認可保育所に入れなかったという知り合いがいて、2人目を産もうか考えてしまうと聞く。近くの認可保育所に入れないという話も聞く。女性の雇用を増やすことが地域の産業を活性化することにもつながるので、ぜひ考えていただきたい。</p> <p>また、妊娠から出産までの継続的な応援ということで、不妊治療の補助金は、埼玉県が年間15万円までで上尾市は独自に5万円上乗せしているのは素晴らしいこと。同じように不育症についても、治療すれば生まれるが多額のお金がかかるので、不妊治療と一緒に支援していただきたい。</p> <p>それと、妊活の前に、婚活というのはこの5年間に何かあるのか。</p>
事務局	<p>まず、不育症について、資料4のNo.12で「〇」、不妊症等の「等」ということで総合戦略に取り組みを反映させていただきます。</p> <p>それから、婚活の応援はNo.25で意見としていただいているところでございますが、都市部の上尾において婚活を行政でやっていく必要があるのかということを見ると、今般婚活をやっているのは中山間地域が多いので、戦略の中にいれるのはなじまないと考えております。社協や勤労者サービスセンターではやっているので、そういうところを活用していただければ。</p> <p>ここで、待機児童の正式な数の情報が入りました。平成27年4月1日現在で15名でしたので、訂正させていただきます。</p>
委員	<p>婚活は必要ないという話だったが、山間部の問題ではなく都市でもあることを理解いただきたい。潜在的なニーズはある。</p>
会長	<p>婚活は、税金を投じてやるのか、民間レベルでやるのか、民間とタイアップしてやるのか、やり方次第。なじまないといわずに検討いただきたい。</p>
委員	<p>KPIについて、10ページに「小学校児童及び中学校生徒の偏差値」で目</p>

事務局	<p>標を出そうという例があるが、これは例えば、他市よりも上回るということを出そうとしているのか、どういう意図で書いているのか。</p> <p>これは県で実施しているテストでございまして、全市対象、さいたま市も入っています。その中で、偏差値を今いくつだから、いくつまで上げていきたいという出し方を考えております。ただし、偏差値にこだわるわけではなく、学校の満足度などのアンケート調査などもやっているのです、そういう数値をもってきてよいと検討しているところでございます。</p>
委員	<p>このテストは他の市の偏差値も出てくるのか。</p>
事務局	<p>平成27年に県が統一で始めたテストなので、どのように公表されるかはまだ把握できておりません。</p>
委員	<p>上尾市が「教育のまち」というのを力入れていくなれば、転出するまちよりも偏差値高いというのを出すのも、ひとつの戦略と思う。</p>
委員	<p>指標を求めるのが偏差値でよいのか、別の視点で学校を「抜き出す」必要があるのではないか。</p>
委員	<p>同じく目標値で、13ページの「第二の人生を謳歌できるまちづくり」の目標値が「特定健康診査・特定保健指導・生活習慣病重症化予防対策ののべ受診者数」というのは構わないが、長期ビジョンの28ページの目指す将来の姿で、「親子の近居等により子育て世代を支援する社会づくりも大切」と書いてある。三世代の同居を増やしていくことが大切と思うので、もう一つ目標を作るとすれば、こういったことを推進して、市外に出て行った子どもが帰ってきて一緒に住んだ数というのを目標にしたらい。</p>
事務局	<p>いろいろなものが考えられるので、今後考えていきたいと思えます。</p>
委員	<p>意見として、10ページの「③地域全体での子育て世代の支援」というのがあるが、共働き世帯が増えた中ではとても大事なことです。その主な取り組み内容が書いてあるがいまひとつ。</p>
委員	<p>子育て関係について、春日部の児童館に見学に行ったことがあるが、そこは高校生も学校帰りに寄れるようなところで、勉強するスペースやバンドを披露するスペースもある。そういった、対象年齢を引き上げて児童館を活性化するのはどうか。中学生が集まれる場所があるといい。例えば団地の空き室を利用するとか、多少、親の目の届くところに集まれる場所をつくと、安心して子育てができる。</p>
委員	<p>総合戦略について、具体的な重点施策という形でうたわれているが、5年間ではこの事業だけをやる、予算をつけて特化してやる、というくらいの絞り込みをしないと、網羅的にやっていたら、5年経って達成できるものはあまりないのではないかと。思い切った施策展開をしないと目に見えた実績は出てこない、施策は重点を置いてやってもらいたい。</p>

事務局	<p>素案は、5年というスパンの中で手が出せるものを書いております。平成27年から動いているものもあれば、すぐ取り組めるものも、少し練ってからでないと取り組めないものもあるので、庁内でも考えてやっていきたいと思います。</p>
委員	<p>集中投資をするにも、5年間の中で実績を出せるものでないと意味がない。</p>
委員	<p>今の話で、個々のビジョンの中でも進めている、その中で特化した何項目かを取るということは、私も重要だと思う。ほかのビジョンでなかなか進められないものを重点的に総合戦略の中に入れていく、それをやっていくためのKPIを明確にして押し上げていくことが重要。</p>
会長	<p>総合計画の組み合わせを変えたようなものではなく、戦略の中でここだというものを打ち出していく、というご意見。</p>
委員	<p>平成52年に適齢期などに到達する子どもたちに、今上尾に住んでいて、こういうものがあつたらよいのではないか、こういうものがあるから上尾に住んでいてよかったといった、今現実に住んでいる人の生の声を聞くことはできるのか。子どもたちの場所がないというのもあるので、生の声が届いているのか。</p>
事務局	<p>検討します。</p>
委員	<p>今年度の先行型の交付金で、上尾市はプレミアム商品券をやったが、子育て施策をやっているところもある。上尾市も県に倣うだけでなく、「上尾に来たらいいことがある」という施策を検討していただきたい。「子育てするなら上尾で」ともう一度言われて、若い人が移り住めるようなまちにしていきたい。</p>
会長	<p>KPIについて数の問題。先ほど数は1つか2つかという話をさせていただいたが、どのレベルで設定するかというのも大きな問題。</p> <p>例えば、「1安定した雇用を創出する」で(1)の節単位で指標の設定をしているが、そうするとその下の①のレベルでの指標の設定がなされない。出荷高だけで、①産業の活性化、②民間事業者等の積極的な活用、ができていないかの検証は難しくなる。</p> <p>加えて、既存のデータを活用するということから、こういった指標が一例として挙がっているが、出荷高だけでは、上尾市として何をやりたいのか政策的なメッセージが読み取れない。例えば、新たな雇用が創出されたかどうか、というのは出荷高では分からない。</p> <p>二つ目の指標の設定の観点としては、主観的な指標を設定するのと、客観的な指標を設定するという考え方がある。両方あるのが一番理想的。主観的な指標というのは、例えば、住環境への満足度であって、人間の心理をアンケートで集めていく。客観的な指標というのは、出荷高等などであり、人間の心理状態に左右されないもの。自治体によっては満足度調査を定期的に行っているもので、そういった調査をすればこの戦略にも使えると思う。</p> <p>個別の話では、10ページの教育の話で、偏差値の良し悪しはあるが、内容をよく読むと学力についてだけ触れているわけではない。「知徳体」というのが、これだけだと偏差値で学力だけを取っている。それから、埼玉県調査なのか、</p>

	<p>全国で行われている標準学力検査（NRT）を使うのかどうか、何年生を対象にするのかというように、指標をどのように設定するのかは問題になってくる。それから、最近大きな問題になっている、いじめや不登校の問題は、偏差値だけでは分からないので、そういったことを入れる余地があるのかも、今後の議論になってくると思う。幅広く見ないと、偏差値だけでは矮小化されてしまう。</p> <p>総合戦略については、皆さま方からいろいろご質問ご意見をいただきました。事務局には、これを精査したうえで庁内で議論し、第3回目（10月1日）の前に検討状況を情報提供していただけるか。そのうえで、第3回目で皆さまとご審議していきたいと考えているがよろしいか。</p>
委員	<p>その件で伺いたいが、10月1日の前に資料が出てくるということだろうが、そこで皆さんの意見を聴取することはあるのか。</p>
事務局	<p>今回と同じように、事前にご意見をいただいて、10月1日の段階でそのご意見をすべてお見せするような形でやりたいと考えております。</p>
会長	<p>次回までのスケジュールに議論が及んできているので、(4) その他について事務局から詳細な説明をお願いします。</p>
事務局	<p>スケジュールですが、今回は10月1日（木）13時30分から予定しております。その後は、その会議を踏まえて案を市民に公表していくスケジュールでございます。</p> <p>それとは別に、広く意見を聴取するように国の方から指導が来ております。これは、審議会では、産官学金労言ということで様々な分野の方からご意見を伺って意見をまとめるようにというものでございます。この審議会の中では「言」マスコミ関係の方は入っていないので、今後、マスコミの方とも意見交換をする予定でございます。次回提示する資料程度のものはお見せして、マスコミ関係の方からご意見をいただくスケジュールを考えております。</p> <p>事務局からは以上になります。</p>
会長	<p>ただいま事務局から説明がありましたが、これについて何か質問はございますか。また、次回までに何かご質問があれば事務局までお願いします。</p>
委員	<p>「まち・ひと・しごと」ということで、「しごと」の議論に入ったところで発言しようと思っていたが、この場をお借りして報告させていただく。</p> <p>ハローワークでは雇用の創出という意味で、求人自体は増えているが、その「質」というものを考えていて、正社員のウエイトを上げようということで全国的に動いている。そこでは、正社員の実現加速プロジェクトというものの中に、多様な正社員というものがある。これが、人口の面で転出の歯止めになると考えている。正社員化というのは優秀な人材の確保、ワークライフバランスのためにということをやっている。</p> <p>それから、世代別で年少人口・生産年齢人口・老年人口という区別があるが、老年人口は65歳以上となっている。ハローワークが高齢者対策としてやっているのが、65歳まで希望者は全員働けることを推奨することで、これはほぼ完了しつつある。今度はそれをさらに拡大して、70歳や期限なしで働けるような状況を確認するように進めている。つまり、これが実現されると、65歳</p>

<p>委員</p>	<p>以上が老年人口となっているが、70歳まで生産年齢人口になることが長い目で見れば有りうるのではないかと、ということで進めている。</p> <p>「総合戦略に対する意見シート」にいくつか案を書いたが、そのシートには、「5か年で人口減少を抑制するために本市が実施した方がよいと思われる事業について」と書いてあったので、私もかなり具体的に書いたつもり。そのときに何を思ったかという、先ほどの委員の話にもあったが、長期ビジョンや総合戦略の素案に出ているような大枠の文字を入れ替えるなどしても、5年以内に具体的に事業はできない。雇用の部分、子育ての部分、魅力的なまちづくりの部分では具体的にこれをやるといった、小さいものでもよいので具体的に事業化できることをうたっていたきたい。</p> <p>たとえば私が書いたのは、雇用のところでは、若い人は地元で創業して若い人を雇う、そして若い人が地元で家庭をつくり、上尾市で子どもを産み、税金を納めるという流れをつくっていくということ。「今後5か年で行うべき重点施策」として書いてあるが、5か年ですぐ結果が出るような書き方とは思えない。具体的な事業を書いたほうが、説得力がある。</p>
<p>委員</p>	<p>私は「雇用」に関心を持っている。資料3の8ページ「①産業の活性化」で、上尾市の持つ商工業の「強み」を強化・育成するという言葉があるが、「強み」とは一体何かということをよく理解していかないと、間違った方向へいってしまう。私が上尾市に来ていちばん驚いたことは、東京近郊にありながら製造業が非常に多く、そういった会社はきちんと技術を持っていること。ただ、マッチングがうまくいっていないのではないかと、よく上尾を見つめ直す必要があるのではないかと。</p> <p>地域創生は全国の地方公共団体に出された課題で、上尾市だけがやるわけではない。近隣どこも似たり寄ったりの話では、要らないのではないかと終わってしまう。そうすると、地元を見つめて考えた案を出していかないと厳しい。とくに埼玉県の場合は、特長ある市町村はそう多くない。過去の歴史の中で多少ある特長が、時代とともに薄れ始めている、もしくは特長がなくなっている市町村さえある。だとすれば、具体策に「上尾」という感じがあるものが必要。</p> <p>金融機関の立場で、雇用の創出と言ったときに何ができるのかというと、例えば川口では、企業向けに市で利子の補給制度がある。利子補給は、使った予算の百倍くらいの効果がある。直接資本を投下してモノを作るのは難しいしお金もかかるが、そこには民間の力を使う。雇用の部分は、まさに民間の力を使っているのではないかといけない部分で、そこはうまく考えていかないといけない。</p>
<p>会長</p>	<p>他にないようでしたら、そろそろ閉じたいと思います。進行を事務局にお返しします。</p>
<p>司会 (町田部長)</p>	<p>審議会閉会</p> <p>ありがとうございました。貴重な意見を参考にさせていただき、さらに作業を進めたいと思います。それでは、最後に嶋田副会長から閉会のごあいさつをいただきたいと存じます。</p>
<p>副会長</p>	<p>(あいさつ)</p> <p style="text-align: center;">— 終了 —</p>

